

馬瀬担当区の安全衛生活動 (満7年間の無災害と課題)

下呂営林署 荒木 義一
小池 勇如
栃洞 孝夫

私達の勤務していた旧馬瀬造林事業所は、昭和41年から無災害を続けておりました。

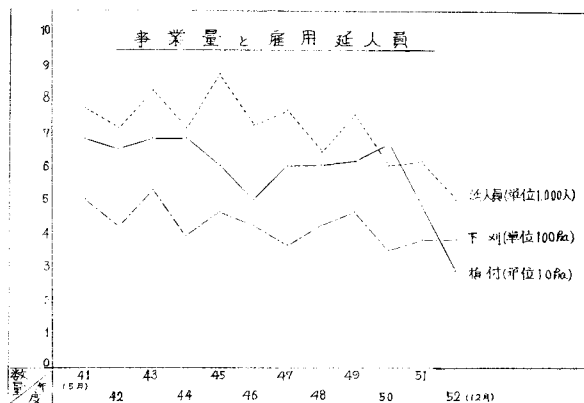
49年度に事業所は廃止となり、馬瀬担当区に統合されましたが、当時確認し合った「安全作業を進め無災害で明るい職場をつくる」課題は、振動障害者の受入れ、他事業、他担当区からの流動化、常用化に伴う冬期作業の本格化などで、新しい安全対策が必要となりましたが、これらの問題に積極的に取り組み、全員の努力によって、今日まで無災害を続けています。

今回どのように安全に取り組んできたか、今後どのように安全衛生活動を進めるか、その内容を発表します。

1 事業の概況

川上国有林の伐採は、50年頃より5皆用に入り、一部人工林にも入ってきました。

そのため更新面積は漸減してきましたが、毎年新植60ha、下刈400ha、雇用延人員は7,000人と、下呂署の造林事業量の約半数をしめておりました。そして、45年には生産事業との流動化が始まり、冬期間は造林手でも慣れない生産事業に、従事することになりました。48年には、振動障害者の受入れ、事業最盛期には、他担当区からも受入れを行い、1日に60数名もが下刈に従事しておりました。49年には、造林事業所が廃止され、担当区に合併しました。又この年より造林事業も常用化に伴い、本格的な冬山事業が始まりました。



(注)

- 45年……生産事業流動化
- 48年……振動障害者受入、他担当区から受入
- 49年……常用化により冬山開始、担当区事業所合併

2 チームワークづくり

上記のような変動の中で、無災害を続けるには、チームワークが第一と考え、そのためには別表のように、4つの目標をかかげ、長い年月の中で定着を図ってまいりました。

チームワークづくり	
○安全ニュースの発行	みんなで話し、みんなで考え、みんなで作ることによって、話し合いがよくなる。
○一言発言	1日の始まり、作業の始まりの一言発言で常に安全喚起させる。
○家族の現場見学	家族に現場の実態を認識させ、安全衛生を理解してもらおうと共に親ほくを図る。
○親ほく会	個人個人の悩みを聞いたり、話し合うことを大切にする。

(1) 安全ニュースの発行

みんなで考え、みんなで作ることによって、話し合いの場を広め、明るくユーモアのある職場をつくるため、48年から月1回の発行をしておりますが、クイズや替え歌などの投稿で、チームワークづくりに役立てています。

(2) 一言発言

「おいお前、元気がないがどこか具合が悪いのかい」とか、「あの山は浮石や根株が多いから気を付けまいか」などと、ちょっとした言葉をかけることによって、慣れや、油断を排除し、連帯を深めてまいりました。

(3) 家族の現場見学

家族に現場の実態を理解してもらい、職場、個人、家族の三者一体となった安全衛生活動をする上で、かせないことです。

(4) 親 睦 会

ふだん話せない人からも、どんな事でも話せる雰囲気をつくるため、よく遊び、よく働くためにも、何回となく計画実行しました。

3 職場の健康管理

安全衛生活動を進める上で、2つ目の柱として、一昨年より各人の健康状態を把握し、災害を未然に防ぐため役立てています。これには次表のように、個人別の健康管理台帳を作成し、健康診断、300事故通報、及び私傷病を記録分析し、これを推進員（班長）を通じ全員に周知させます。

1人ひとりが注意し合っ、お互いが励まし合い、特に不健康状態の人には、比較的無理のない仕

事につかせるなど、作業配置を考えてきました。

又朝の林業体操と同時に、健康点検（顔色点検）、保護具の点検など、習慣化し、連帯意識が出てきました。

健康管理台帳

52年5月分

氏名	年	健康診断と訴えによる						300事故			私傷病				計			
		令	耳	目	手	足	胃	血圧	その他	手	足	肩	カゼ	胃	頭	その他	健診訴え	300事故私傷病
A	57	×					△	△								2	3	2
B	45												15					1
C	55					△		△			植	1					2	2
D	42									下						1		2
E	46																	

×-非常に悪い 地(地拵) 除(除伐)

△-少し悪い 植(植付) 枝(枝打)

下(下刈) つ(つる切)

○各人の健康状態をはあくし安全対策として作業配置等を考慮する。

職場の健康管理

○健康管理台帳作成

(イ) 1人ひとりの健康分析 (同僚の健康状態を知り、安全衛生対策を考える。)

(ロ) 300事故通報の分析 (1人ひとりが注意しあって、お互いに励まし合う。)

(ハ) 私傷病の分析 (不健康状態の人には、比較的なだらかな所で、無理のない仕事につかせるなど、作業配置を考える。)

○朝の健康点検と服装点検

(服装は整っているか、保護具は完全に着用しているか、みんなで点検する。)

4 まとめ

造林事業所からの12年間、66万1千時間の無災害記録を支えてきたものは、

- (1) 仕事始めの「一言発言」により、常に安全を意識させ、慣れや油断が排除できたこと。
- (2) 皆で作る「安全ニュース」により、自発的に安全活動が広がり、クイズや、替歌となって、仲間とのつながりができたこと。
- (3) 「家族の現場見学」は、家族の協力が得られ、職場、個人、家族の三者一体となった安全活動となり、安全標語などは、家族からの投稿となってあらわれたこと。

(4) 「職場の健康管理」では、お互いが健康状態を知り助け合うことで、人間関係がよくなったこと。であると思います。

5 今後の活動

いままで進めてきたことほかに、振動障害者の指導と対策（日常生活も含み、家族とのつながりも、更に深いものにする）。

流動化による安全指導を充実させ、これ以上は振動障害者を出さないために、無災害記録が永遠に続くために、職場、個人、家族が一体となった、安全衛生活動を進めたいと思います。

今 後 の 活 動

1. レイノー者の指導と対策

- 道具の使いわけを指導し、作業配置でも検討していく。
- 陽当りの良い所など作業環境を選定する。
- マッサージや林業体操の励行

2. 流動化による安全指導

（職種の流動化）……………造林→製品。製品→造林。の流動化は作業内容が変わるので、その都度、現場指導と安全懇談会を開く。

（他担当区との流動化）……………作業環境が変わるので、地形や危険か所の説明を行い、現地で具体的に指導する。